

【事中・事後評価】

【事業全体概要】

【事業の目的】

【事業の活動】

【事業の成果】

【コストの推移】

【評価】

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

平成28年度に超特小を導入し、「大」、「中」、「小」、「特小」、「超特小」の5種類とした指定収集袋を活用した、家庭ごみ有料化事業の円滑かつ適正な運用を継続することにより、利便性の向上も図りながら引き続き、家庭ごみの減量・資源化を推進する。

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	ごみ減量・資源化啓発事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー、小学校社会科副読本「きれいな高松に～くらしとごみ～」の作製・配布に加え、平成28年11月から新たに、スマートフォン・タブレット端末利用者に向けての「ごみ分別アプリ」の配信を開始する等により、ごみの減量・リサイクルを推進するとともに、高松市脱炭素型行動推進員の各校区への配置による地域ぐるみの主体的なリサイクルの推進に取り組む。				
6年度概要	ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー（広報紙に掲載）、ごみ分別アプリの配信等により、ごみの減量・リサイクルを推進する。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	

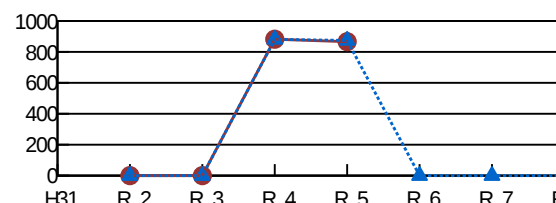
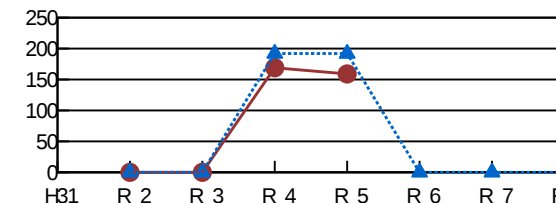
【事業の目的】

対象（何を）	ごみを排出する市内の全家庭
意図（どのような状態にしたいか）	ごみ分別ガイドブックを配布することにより、各家庭が正しいごみの分別方法を理解し、資源物は資源物、有害ごみは有害ごみ、燃やせるごみは燃やせるごみなどのように正しく分別してごみを出してもらう。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
ごみ分別ガイドブック配布数	冊	20,000	20,000	20,000	17,000	20,000

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	1人1日当たりのごみ排出量	g / 人	目標値	0	881	874	0	874
			実績値	0	882	866		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							(達成度) 100.9%
	ガイドブック等により正しい分別やリサイクルの推進等の周知啓発を行い、市民・事業者の「ごみの減量と再資源化」に対する意識向上を図った結果、目標を達成することができた。							5点
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	1人1日当たりの資源化量	g / 人	目標値	0	192	192	0	192
			実績値	0	169	159		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							(達成度) 82.8%
	資源ごみや小型家電等のリサイクル、正しいごみの分別方法の周知等、各種事業を実施し、ごみ排出量が減少した。その結果、ごみの資源化量についても減少となった。							28点

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	10,102	9,727	7,669	7,812
（事業費）	〔円〕	1,419	1,120	895	1,038
（職員人件費）	〔円〕	8,683	8,607	6,774	6,774

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー、ごみ分別アプリ等を活用し、市民の方へごみの減量・リサイクルを推進した。カレンダーを広報紙に掲載したことを周知してきたが、未だ問い合わせはあるため、粘り強く周知、対応していく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
ごみ分別ガイドブック、ごみ収集カレンダー（広報紙掲載）、ごみ分別アプリを活用し、市民の方に周知・啓発することにより、適切にごみの分別・資源化が行われるように今後も周知・啓発を行っていく。			

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	ゼロカーボンシティ推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	ごみ再資源化事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	環境への負荷の低減と限りある資源の有効利用による持続可能な「循環型社会」を形成していくために、ごみの発生抑制やリサイクルをすすめることが重要となり、一人ひとりがごみに対する意識を高め、ごみに責任を持つことが求められている。この事業は、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等の資源ごみについて、再資源化を行うための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては日本容器包装リサイクル協会に引渡し、処理にかかる経費の負担はなし）、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いで出来るものは、専門業者に売却している。				
6年度概要	家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等の資源ごみを、再資源化のための中間処理を行い、プラスチック、色つきのびんについては日本容器包装リサイクル協会に引渡し、缶・びん・ペットボトル、紙類など有価にて売払いで出来るものは専門業者に売却する事業を行う。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	

【事業の目的】

対象（何を）	家庭から出された資源ごみ
意図（どのような状態にしたいか）	家庭から分別して出された資源ごみを再資源化することにより、環境への負荷の低減と限りある資源の有効活用を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
缶・びん・ペットボトル中間処理量	k g	2,370,580	2,372,160	2,699,520	2,600,000	2,600,000
プラスチック中間処理量	k g	3,419,860	3,282,270	3,498,970	3,300,000	3,300,000

【事業の成果】

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）

缶・びん・ペットボトル資源化量

成果指標

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、缶・びん・ペットボトルの資源化量は現状数量で維持する。なお、令和5年度は目標を下回った。

（目標達成度）



（達成度）

90.4%

31点

単位

種別

R 3

R 4

R 5

R 6

中期目標 R 5

k g

目標値

2,250,000

2,250,000

2,250,000

2,250,000

2,250,000

実績値

2,266,610

2,016,160

2,034,932

成果指標名（どのような成果が得られたか）

プラスチック資源化量

成果指標

成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）

家庭ごみ中の資源化の推進による資源ごみ量の増加要因と、家庭ごみ全体の減量化の推進による資源ごみ量の減少要因から、プラスチック容器包装の資源化量は現状数量で維持する。なお、令和5年度は目標を下回った。

（目標達成度）



（達成度）

98.1%

34点

単位

種別

R 3

R 4

R 5

R 6

中期目標 R 5

k g

目標値

3,026,000

3,026,000

3,026,000

3,026,000

3,026,000

実績値

3,002,350

2,967,270

2,969,400

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	[千円]	190,129	184,128	180,979	206,446
（事業費）	[千円]	183,334	179,263	177,592	203,059
（職員人件費）	[千円]	6,795	4,865	3,387	3,387

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	統合
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
缶・びん・ペットボトルについて、中間処理量は増加したにもかかわらず、資源化量が減少した。適切な分別の徹底等により、資源化量を増加させていく必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
引き続き、家庭から出された缶・びん・ペットボトル、プラスチック、紙類等資源ごみの中間処理を行い、再資源化を推進する。また、今後は市民の方への周知・啓発の方法等も含めた内容で事業を見直し、評価することを検討する。			

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境業務課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-834-0389
	基本事業	ごみの減量・リサイクルの推進		事業実施主体	市
	事務事業	小型家電等リサイクル推進事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	支所・出張所や家電販売店及び「不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦」などのイベントに回収ボックスを設置して、使用済小型家電 3 2 品目を回収する。また、南部・西部クリーンセンターの委託業者の協力を得て、ピックアップ回収を実施する。				
6年度概要	小型家電リサイクル事業の普及・啓発事業のため、チラシの作成及び配布を行う。				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）

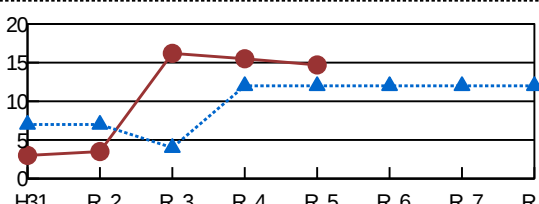
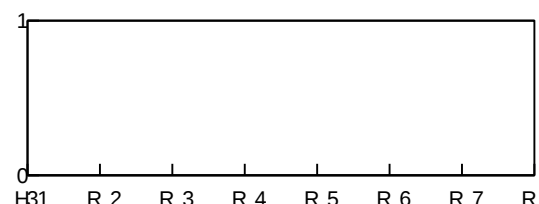
【事業の目的】

対象（何を）	・不要になった携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機等の使用済小型家電 3 2 品目。 ・家庭から出る破砕ごみから回収された使用済小型家電 3 2 品目。
意図（どのような状態にしたいか）	・使用済小型家電の回収を実施することにより、レアメタルを含む有用な金属のリサイクルを推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
住民説明会等の実施回数	回	2	1	8	10	13

【事業の成果】

【事業の成果】		成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5	
成果指標	年間回収量	トン	目標値			4	12	12	12	1	
			実績値			16.2	15.5	14.7			
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）										
令和3年4月から回収品目にパソコンなど11品目を追加したことにより、令和5年度の回収量は約14.7トンとなり、前年度とほぼ同量の回収量を確保することが出来た。		(目標達成度)								(達成度) 122.5% 35点	
【事業の成果】		成果指標名（どのような成果が得られたか）		単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5	
成果指標			目標値								
			実績値								
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）										
		(目標達成度)								(達成度)	

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	814	809	815	805
（事業費）	〔円〕	59	61	62	52
（職員人件費）	〔円〕	755	748	753	753

【評価】

評価ランク （A～D）	A	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 回収品目が拡大されて 3 年目ではあるが、引き続き回収量は前年度並みを確保することができた。 今後、更なる周知啓発を図っていきたい。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 引き続き周知啓発を図り、一層の回収量増加に取り組むとともに、更なる回収対象品目の拡大についても検討する。			